

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(大方あかつき館文学館担当)
高橋 茉莉江
たかはし まりえ

Q 8月から協力隊に着任した高橋さん。黒潮町を選んだきっかけは何ですか？
また、黒潮町の印象はどうですか？

A 2年ほど前から地方への移住を考えていたのですが、黒潮町に1人で移住した女性が出演するトークイベントをYouTubeで見て「この町なら行けそう」と思ったことがきっかけです。私は、これまで東京で医療系の出版社に勤めていたこともあり、本の良さを伝える仕事がしたいと考えていたところ、ちょうど大方あかつき館で協力隊の募集があることを見つけ、黒潮町への移住を決意しました。

黒潮町は、景色がきれいで、野菜や魚がおいしくて、人が優しい町ですね。今まで海沿いに住んだことがなかったのですが、海の色や波の音、匂いが毎日違って、「海を感じながら生活するっていいなあ」と感じています。

Q 大方あかつき館ではどんな仕事をしていますか？

A 上林暁文学館の企画展、文学講座、イベントなどの準備、運営や、図書館のお手伝いなどもしています。大方あかつき館の情報をインスタグラムで発信したり、上林暁を知らない人にも楽しんでもらえるよう、「酒とおやつと上林文学」の地図を作ったりと広報活動も行っています。今後は、今まで文学館に来たことがない方にも気軽に来ていただけるような企画や、上林暁の作品を通して、町の魅力を再発見ができるような企画もできたらいいなと考えています。



作品展の片付けする高橋さん

協力隊から一言！

皆さんの好きな本を教えてください。
本を通してさまざまな年代の方と仲良くなれたら嬉しいです。

Kramer's Corner

クレームのコーナー



今月のテーマ テキサスへ帰郷

10月に2年ぶりに故郷のジョージタウンに帰りました。東京からダラスまで11時間のフライト、そしてジョージタウンまで3時間のドライブの後、夜中に疲れ果てて到着しました。翌日起きて昼間の町を見たら、たった2年でこんなにも変わったのかと驚きました。道路工事があちこちにあって、僕がいない間に実家の近くが大きく発展してきました。一方で、全く変わっていないところもありました。慣れ親しんだものと見知らぬものが混じり合った不思議な気持ちになりました。

実家に帰ったら家族のみんなが歓迎し、母が僕の大好きなカボチャスープを作ってくれました。久しぶりにみんなに会えて本当に嬉しかったです。家族も喜んでくれて、特におばあちゃんが嬉しさのあまりに少し涙目になりました。たくさん話をし、夕食はもちろんテキサス名物のバーベキューにしました。そしてお父さんとおじいちゃんと一緒に熱いコーンホールの試合をしました。残念ながら僕は練習不足で大敗を喫しました。

久しぶりに故郷に帰ると、いろいろな気持ちが湧いてきますね。親戚との再会の喜び、見慣れた景色の安心感、そしていつの間にかその景色が変わってきたのに気づいたことから来る小さな寂しさ、皆さんも帰郷すると同じような感情を抱くことはないのでしょうか。この旅で僕

は外国で生活する大切さに改めて気づきました。新しい文化を好きになるだけでなく、自分の故郷への愛情も深まります。黒潮町に生活しに来なかったら、故郷に対してそのような思いをしなかったでしょう。ここに来て本当に感謝しています。



馬に餌をあげているクレームとおじいちゃん

今月の使える！英語

I'm home! ただいま!

